



2学期がスタートしましたが、みなさん元気にお過ごしでしょうか。

今回は、夏季休業中に行った研修会の報告をします。この研修を今後の指導の参考にしていただければと思います。子どもの学びを保障するために、日々研鑽し実践していきましょう。

子どもの育ちをつなぐ研修会

7月28日（月）クアスポくちたんを会場として、管内の保育所（園）・幼稚園・こども園・小学校の教員など約50名が参加、オンラインでも約30名が参加しました。



講演

「幼児期の子どもの学びと育ちを小学校へつなぐ」 ～主体的に生きる子どもを育てる～



兵庫教育大学

教授

鈴木 正敏 様

★幼児期の体験の影響が思春期に現れるという話が興味深かった。長期的な視点で子どもを育てるということ意識していきたい。また、0歳から18歳の学びは連続しているという言葉に納得した。幼児期の教育と義務教育の接続の重要性を校内でも共有したい。（小学校）

★主体性を大切に保育をする中で、子どもはそれぞれ何に興味があって、どんな学びをしているのかを知り、保育者も一緒になって遊ぶ楽しさを感じている。その学びを小学校につなぐことで、子どもにとって小学校が安心できる場所になると思う。小学校との連携を密にしていきたいと思った。（保育園）

★子どもたちが自ら育とうとする姿を理解し、援助したり関わったりしていかなければいけないと再確認した。また、幼児期に子どもたちの育ちを丁寧に見取ることが、小学校の自覚的な学びへ自ずとつながることを念頭に置き、日々の教育を進めることが何よりも大事であると思った。（こども園）



★具体的な事例をもとにしたお話は、どの事例もワクワクしながら聴いていた。改めて「好き」「面白い」が学びの基本であると共に、保育者の意図や願い（動機づけ）が大切だということが分かった。幼児期はいろいろな体験経験が出来る時だが、後の成長につながる質の高い保育をしていかなければならないと感じた。（幼稚園）

グループ交流・協議

「子どもの姿から学びを見取る」

～子どもたちの夢中で遊び、学ぶ姿を交流～



★保育所・幼稚園の先生方との交流を通して、「こういう活動をしているんだ」「こういった経験が今の姿につながっているんだ」「ここまで出来るんだ！」とたくさんの気づきがあった。幼小連携のイメージがもてた。（小学校）

★子どもの興味を引き出しつつ、進めていくことの難しさは、小学校、幼稚園、保育園、こども園共にあるのだと感じた。だからこそ連携を大切にしたい。（こども園）

★小学校での取組はあまりイメージがなかったが、子どもたちが夢中になって楽しんでいる様子が分かった。こういう交流はあまりなかったので、小学校との交流の機会をもっと持てたらいいと思った。また、保育園での取組が小学校でできているという発見があった。日々の保育の中で、つながっているということを意識したい。（保育園）

★幼児期で体験した遊びや活動が、小学校の授業につながっていることや小学校の先生方が幼児期の経験や育ちを大切にしようと考えておられることが感じられた。この研修会のグループ交流で、小学校との交流の機会が増えた。（幼稚園）

◇ 次回は、3学期に「未来へつなぐ架け橋研修会」を予定しております。多数ご参加ください！